

17

生涯を通じた健康づくり推進プロジェクト

概要

高齢化が進む中においても、県民誰もが生涯を通じて、健やかに心豊かに生活できるよう、全てのライフステージを通じた健康づくり推進の取組を展開する

重点
施策

60 県民の主体的な健康づくりの推進

61 県民の健康づくりを支援する環境づくり

(1) 成果指標の状況

成果 指標	進捗状況	指標数	主な指標
	★★★★★(目標を達成)		
	★★★★ (計画を上回る)	1	県立スポーツ施設の年間利用者数
	★★★ (ほぼ計画どおり)	1	健康寿命
	★★ (計画を下回る)	3	特定健康診査実施率 等
	★ (計画から大幅に遅れ)		

(2) 県民実感に係る調査結果

調査区分	調査項目	そう思う	どちらともいえない	そう思わない
県民実感度調査 (%)	生活習慣病の予防など、健康づくりに向けた対策が進んでいると思いますか。	31.2	48.5	18.8

(3) 主な取組と成果

◆県民の主体的な健康づくりの推進

- 「やまぐち健幸アプリ」の運用により、健康づくりに関する個人の取組の「見える化」「日常化」を図るとともに、健幸アプリの普及による**個人の健康行動データ蓄積**に向けた**基盤を整備**。

また、企業・団体間での平均歩数からランキングを決める「**健幸チャレンジ月間**」を開催し、企業等における**運動習慣の定着**に係る組織的な取組を推進。

- ・やまぐち健幸アプリダウンロード数：**83,000 件超**（令和 7 年度末時点）
- ・企業・団体登録：**456 社**（令和 7 年度末時点）

- **減塩や野菜摂取量の増加等、県民の食生活の改善を促す取組**として、働く世代や小中学生等を対象に中食・外食を活用した食生活改善講習会を開催。

- ・講習会の開催数・参加者数：**延べ 66 回、延べ 1,593 人**(令和 7 年度末時点)

- 8020 運動や、官民協働「健口スマイル」推進事業により、歯を残すだけでなく、咀嚼や嚥下、会話等の歯・口腔が有する機能を、生涯にわたって、獲得・維持・向上させる**歯・口腔の健康づくりを推進**。

- ・8020の達成者：**55.4%**（令和 4 年度）
- ・歯科保健大会の参加者数：**1,114 人**(令和 7 年度末時点)
- ・成人期の歯科健診時の保健指導・健康教育のモデル事業：**40 事業所・752 人**(令和 7 年度末時点)

◆県民の健康づくりを支援する環境づくり

- 企業を通じた働く世代への健康増進の働きかけを促す「**やまぐち健康経営企業認定制度**」の**取組拡大**などにより、県民の**主体的な健康づくりを支援**。

- ・やまぐち健康経営登録企業数：**1,683 社**、うち認定：**977 社**(令和 7 年度末時点)

- 慢性腎臓病の予防及び重症化予防を推進するため、**山口県心腎代謝（CKM）診療医認定制度を導入**し、総合的な健康管理及び専門医等との連携促進を図る。
・専門医及びかかりつけ医の認定数：**161 人**（令和 7 年度末時点）
- **健康エキスパート薬剤師**の登録を推進するとともに、健康エキスパート薬剤師による薬と健康相談キャンペーンの開催やまちなか健康サポート推進モデル事業を実施。
薬と健康相談キャンペーン：県内スーパー等 4 か所（8/3 及び 8/24 開催、参加者 **519 名**）、山陽小野田市立山口東京理科大学（11/9 開催、参加者 **45 名**）
まちなか健康サポート推進モデル事業：県内スーパー等 2 か所（それぞれ 11 月から 2 月の間で毎月 1 回開催（延べ 8 回開催）、参加者 延べ **157 名**）

(4) 総評

総
評

健康への意識の高まりや県民の主体的な健康づくりがある程度進んできたが、三大生活習慣病の年齢調整死亡率は男女とも全国平均を上回っており、誰一人取り残さない健康づくりを展開するとともに、県民一人ひとりが意欲をもって健康づくりに取り組むことができる環境づくりをさらに進めていくことが求められている。

(5) 課題と今後の展開方向

課
題
と
今
後
の
展
開
方
向

◆県民の主体的な健康づくりの推進

- 健康寿命は国と同様に男性で短縮、女性で延伸しているものの、平均寿命は男女とも全国平均を下回っている。また、三大生活習慣病の年齢調整死亡率は、男女とも全国平均を上回っていることから、生活習慣の改善に一層取り組むため、県民一人ひとりが健康づくりに取り組めるよう、誰一人取り残さない健康づくりを展開するとともに、健康づくりの「見える化」・「日常化」を推進していく必要がある。
- 「やまぐち健幸アプリ（記録アプリ）」は、県民全体に対して一律に働きかける「ポピュレーションアプローチ」が中心であり、個々の生活習慣や健康状態に応じた支援を十分に行うことが難しいため、県民一人ひとりの行動変容につながる機能の導入について検討していく必要がある。
- 特定健診やがん検診の受診率は全国平均より低く、特に女性特有のがん検診は低く、さらなる受診促進を図る必要があること、また、歯周病について歯科健診（検診）により早期から対策をとることが重要であることから、市町や保険者、関係団体、企業との連携を強化し、受診機会等の拡充や受診勧奨の促進など、健康づくりに向けた健診（検診）を一層推進する必要がある。
- 8020 運動の推進により、80 歳になっても自分の歯を 20 本以上保つ「8020 達成者」の割合は増加したが、高齢者の口腔機能の低下（オーラルフレイル）や小児の口腔機能発達不全等の課題だけでなく、全身の健康と口腔の健康に関するエビデンスも注目されていることから、ライフステージに応じた口腔機能の獲得・維持・向上に取り組む「健口スマイル運動」を健康寿命の延伸に寄与する取組として、一層推進する必要がある。

◆県民の健康づくりを支援する環境づくり

- 県民誰もがそれぞれの年代等やライフステージに応じた健康づくりを積極的に取り組める環境づくりを進めることが重要であるため、登録者が着実に増加している「やまぐち健幸アプリ」をはじめ、「やまぐち健康応援団」、「やまぐち健康経営企業認定制度」とともに、生活習慣病予防のための健康づくりを一層推進する必要がある。
- 腎不全や心疾患による死亡率が高い状況にあり、CKD（慢性腎臓病）は腎不全のみならず、心筋梗塞や脳卒中など心血管疾患の発症・死亡リスクとなる。このため、CKD の要因となる疾患（糖尿病・高血圧等）を含めた包括的な管理を担う「山口県心腎代謝（CKM）診療医認定制度」の診療連携体制の強化・推進を図る必要がある。

- 健康エキスパート薬剤師の登録・啓発を進めつつ、県民自らの健康づくりがより効果的に進むよう、健診結果等を活用し、相談者に応じた健康サポートを実施するなど、薬学的な健康サポートの推進を図る必要がある。

(参考) 令和 8 年度の主な新規・拡充取組

拡 健口スマイル運動・口腔保健推進事業

全身の健康と口腔の健康に関するエビデンスの活用や歯科保健医療サービス提供困難者に対する取組の包括的かつ効果的な推進に向けて、新たに、歯科保健医療提供体制の充実に向けた体制整備を図る。